

事務事業マネジメントシート(令和 2年度実績と令和 3年度計画)

令和 3年 4月26日更新

事務事業名		フッ化物洗口事業				☐ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	2 福祉の健康				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	栗木 清智
	施 策	5 健康づくりの推進				所属課	学校教育課	担当者名	前田 京香
	施策の柱	20 病気の早期発見				所属班	学務指導班	(内線)	5327
予算科目		会計一般	款 10	項 1	目 3	事業連番 11647	根拠法令	熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例	
終了、開始年度		☐ 2年度で終了 ☐ 2年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 27 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例に基づき、市内小中学校の児童生徒を対象として、フッ化物を用いたむし歯予防事業。 市内小中学校の児童生徒を対象としたフッ化物洗口。フッ化物洗口に伴う薬剤、消耗品等の購入。洗口の準備・片付け・実施の円滑な遂行のため補助員を3名配置する。
【業務の流れ】	実施希望調査、処方指示書、洗口液・消耗品（購入と配布）、洗口実施、実施報告書作成
【主な予算費目】	医薬材料費、消耗品費、補助員費（報酬）
【意見や要望】	フッ化物洗口事業が、保育園からの継続実施になる児童もいるので保護者から喜ばれている。教職員等の協力もあり、順調に実施することができている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 2年度実績(2年度に行った主な活動)(DO) 平成27年9月より全校実施を開始した。年度始めに実施希望調査を行い、毎週全校でフッ化物洗口の実施。フッ化物洗口に伴う薬剤、消耗品等の購入。洗口の準備・片付け・実施の円滑な遂行のため補助員を3名配置した。		3年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 前年度同様に実施する。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 児童生徒数	人	フッ化物洗口実施補助員の期末手当が満額支給されることに伴う増
→ イ 実施回数	回	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
小中学校児童生徒		→ ア 小学校児童数
		→ イ 中学校生徒数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
口腔の健康意識が高まり、むし歯の保有率が低下する。		→ ア 洗口実施児童数
		→ イ 洗口実施生徒数
*③成果指標設定の理由と 3年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
むし歯予防の観点より、義務教育期のフッ化物洗口が最も高い効果が得られるため、実施を希望する児童生徒数を設定の理由とした。		全体計画 ~ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	30年度 実績(決算)	31年度 実績(決算)	2年度 目標(当初予算)	2年度 実績(決算)	3年度 目標(当初予算)	4年度 予定	5年度 見込	6年度 見込
① 活動指標	ア 人		6,678	6,893	6,960	6,944	7,105	7,250	7,300	7,350
	イ 回		36	36	40	24	40	40	40	40
② 対象指標	ア 人		4,694	4,855	4,850	4,834	4,950	5,050	5,150	5,250
	イ 人		1,984	2,038	2,110	2,110	2,155	2,200	2,245	2,290
③ 成果指標	ア 人		4,225	4,438	4,830	4,495	4,925	5,025	5,125	5,225
	イ 人		1,587	1,666	2,100	1,709	2,140	2,185	2,230	2,275
投 入 費 用	財 源	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円	1,359	1,450	1,399	1,059	1,190	1,395	1,395
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	入 費	一般財源	千円	3,996	4,426	5,943	4,492	6,565	6,269	6,269
		(A) 事業費計	千円	5,355	5,876	7,342	5,551	7,755	7,664	7,664
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	4,962	4,962	4,962
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		人件費	人	1	2	2	1	2	2	0
人 件 費	延べ業務時間	時間	300	375	260	300	260	260	260	260
		(B) 人件費計	千円	1,182	1,486	1,035	1,182	1,035	1,035	1,035
	トータルコスト(A)+(B)		千円	6,537	7,362	8,377	6,733	8,790	8,699	8,699

事務事業名	フッ化物洗口事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	学校教育課
-------	----------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は 2年度的事後評価、ただし複数年度事業は 2年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 2年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 小中学校全校でフッ化物洗口事業を実施することができた。
	② 3年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 小中学校教職員・保護者に対し、事業への理解と定着を進めていく。むし歯予防への意識を高める。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 幼児期に健診でのフッ化塗布事業、保育園でのフッ化物洗口実施に続き、小中学校でも継続して行われることになり、更にむし歯予防への意識が高まるため。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 県の条例に基づき行うため統廃合はできない。他に類似する事業がない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 小中学校では、平成27年から始まった事業であり、フッ化物洗口法の定着を進めるため、指導内容を充実させる。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 洗口実施が学校内で完結でき、定着を進めるために補助員は必要である。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 義務教育である小中学生の健康保持を図るため適切である。また、学校内で行われるため公平である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 洗口実施については、県の条例・マニュアルに基づき実施しているため、他の団体への事業移行はできない。役割分担は、適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

県の条例に基づき、実施していく事業であり、学校内での定着を図る。また、この事業を機会に家庭でのむし歯予防の意識を高める。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上		○																									
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												